

# 浜っこ支援本部の「緑のカーテン」の取組が 「エコプロダクツ 2012」に出展しました

杉並区立浜田山小学校学校支援本部（浜っこ支援本部）の取組から

2012年12月13～15日に東京ビッグサイトにて開催された「日本最大級の環境展示会『エコプロダクツ 2012』」[主催：(社)産業環境管理協会、日本経済新聞社]において、浜っこ支援本部のサポートにより、子供たちが主体となって活動内容について紹介していましたのでその様子をお伝えします。

当日の会場は、企業、行政、大学・研究機関、NPO・NGOなど、約700程の企業や団体等が集まっており、環境に関する様々なテーマの内容で出展されていました。その中の「大学・教育機関コーナー」の一角に、杉並区立浜田山小学校学校支援本部（浜っこ支援本部）が出展していました。

浜田山小学校では、浜っこ支援本部のバックアップによって、平成20年からゴーヤによる緑のカーテンづくりに取り組んでいます。この取組は、5年生の総合的な学習での環境学習の一環として行なっているものです。

1学期から夏にかけて様々な段階を経てゴーヤを育てながら植物の成長過程を体験的に学ぶとともに、緑のカーテンとして出来上がった後に気温の変化を測定しその効果を実感したりするなど、一連の取組の中で、環境に関わる学習ができるような活動として工夫されています。



当日の出展ブースでは、子供たち手作りの掲示物が展示されており、「①土作り、②種まき、③定植、④摘心・誘引、⑤雄花・雌花・実、⑥温度測定、⑦調理実習、⑧片付け」までの約半年間の一連の流れについて、イラストや写真を交えて、詳しく解説されていました。



また、ブースでは、子供たちが少しはにかみながらも、この掲示物について交代で一生懸命説明してくれて、見学者の質問にもいろいろ答えてくれました。やはり、実際に体験してきた活動なので、自信をもって説明しているという印象を受けました。

子供たちの話の中から、地域の方の様々なサポートを受けながら、土作りからはじまり生育過程を体験することでそれぞれの気づきや学びがあり、それが学校での教育と有機的につながっていくという効果が生まれていると感じました。

成長したゴーヤは収穫し、調理実習で、「ゴーヤチャンプルー、ゴ

「ヤチヂミ、ゴーヤうどん、ゴーヤジュース」をつくり、みんなで食べてみたら「苦手だったゴーヤがおいしく食べられるようになりました」という話もされていました。

調理実習でも、紙の箱に生ごみを入れ、水を切って乾かすことでゴミの量を減らすようにするなど、「エコ」について考えられるような工夫がされています。

そして、残った茎などは、土にまぜて腐葉土として再利用するという循環型の環境学習として次年度の取組に生かしていくそうです。

子供にとって、身近なところで環境を考える一つの特徴的な取組だと感じました。

